



表 1

平成30年度 中部地方整備局入札監視委員会  
第一部会 第2回定例会議審議概要

開催日及び場所	平成30年10月1日(月) 14時00分～16時00分 名古屋銀行協会会館 2階 201号室	
委員	部会長：永田和寿 (名古屋工業大学 大学院 工学研究科 准教授) 委員：小島 淳 (名古屋大学 大学院 法学研究科 教授) 中村 麻理 (名古屋文理大学 健康生活学部 教授) 橋本 修三 (弁護士) <div style="text-align: right;">(委員は五十音順)</div>	
審議対象期間	平成30年4月1日～平成30年6月31日	
抽出案件	総件数 8 件	審議案件は「表2」のとおり
【工事】		
一般競争入札方式 ( 拡 大 )	2 件	
指名競争	1 件	
随意契約	1 件	
【建設コンサルタント業務等】		
一般競争入札方式	1 件	
指名競争	1 件	
簡易公募型 プロポーザル方式	1 件	
【役務の提供等及び物品の製造等】		
企画競争	1 件	
委員からの 意見・質問、 それに対する 回答等	意見・質問	回 答
	「表3」のとおり	「表3」のとおり
委員会による 意見の具申 又は勧告の内容	なし	

表 2

## 抽出事案一覧表

(期間:平成30年4月1日～平成30年6月31日)

## 【工事】

番号	工事名	工事種別	競争参加資格 を確認した者の数	入札参加者数	契約 締結日	契約の相手方	契約金額 (千円)	落札率 (%)	備考
1	(一般競争入札方式:拡大) 平成30年度 138号BP柴怒田橋鋼上部工事	鋼橋上部	18	17	H30.6.13	(株)横河ブリッジ	407,160	90.04	沼津河川国道事務所(本官契約)
2	平成30年度 飯田国道CCTV設備整備工事	通信設備	7	6	H30.5.16	名菱電子(株)	65,340	90.72	飯田国道事務所(分任官契約)
番号	工事名	工事種別	指名業者数	入札参加者数	契約 締結日	契約の相手方	契約金額 (千円)	落札率 (%)	備考
3	(指名競争入札方式) 平成30年度 浜松河川国道管内空調改修工事	暖冷房衛生設備	18	6	H30.6.13	(株)日本空調東海	9,828	95.69	浜松河川国道事務所(分任官契約)
番号	工事名	工事種別	指名業者数	入札参加者数	契約 締結日	契約の相手方	契約金額 (千円)	落札率 (%)	備考
4	(随意契約方式) 平成30年度 静岡国道管内道路清掃作業	維持修繕			H30.4.2	富士ロードサービス(株)	54,000	99.05	静岡国道事務所(分任官契約)

## 【建設コンサルタント業務等】

番号	業務名	業種区分	競争参加資格 を確認した者の数	入札参加者数	契約 締結日	契約の相手方	契約金額 (千円)	落札率 (%)	備考
5	(一般競争入札方式) 平成30年度 23号名豊道路自然環境調査業務	土木コン	10	10	H30.4.17	大日コンサルタント(株)	20,250	79.58	名四国道事務所(分任官契約)
番号	業務名	業種区分	指名業者数	入札参加者数	契約 締結日	契約の相手方	契約金額 (千円)	落札率 (%)	備考
6	(通常指名競争入札方式) 平成30年度 木曾川下流管内水文観測所保守点検・資料整理業務	測量	12	9	H30.5.1	大同コンサルタンツ(株)	24,840	84.87	木曾川下流河川事務所(分任官契約)
番号	業務名	業種区分	手続への参加資格及び 業務実施上の条件を 満たす参加表明書の 提出者数	技術提案書 の提出者数	契約 締結日	契約の相手方	契約金額 (千円)	落札率 (%)	備考
7	(簡易公募型プロポーザル方式) 平成30年度 由比地区地すべり機構検討業務	土木コン	1	1	H30.5.24	(一財)砂防・地すべり技術センター	46,504	98.99	富士砂防事務所(分任官契約)

## 【役務の提供等及び物品の製造等】

番号	業務名	業務分類	企画提案書 の提出者数	企画競争参加資格 要件を満たす企画提 案書の提出者数	契約 締結日	契約の相手方	契約金額 (千円)	落札率 (%)	備考
8	(企画競争方式) 平成30年度 大規模津波防災総合訓練運営支援	役務の提供等	2	2	H30.4.6	(株)CBCクリエイション	49,993	100.00	中部地方整備局

表 3 委員からの意見・質問、それに対する回答等

(1) 報 告	
①工事に係る入札方式別発注工事一覧 ②建設コンサルタント業務等に係る入札方式別発注業務一覧 ③役務の提供等及び物品の製造等に係る入札方式別発注業務一覧 ④指名停止等の運用状況一覧表 ⑤談合情報等の対応状況 ⑥再度入札における一位不動状況 ⑦工事種別ごとの低入札価格調査制度調査対象工事の発生状況	
意見・質問	回 答
なし	

(2) 審 議		
会議の審議対象案件は、当番の委員が入札契約方式別に事務所毎の審議実績及び工事種別等を考慮したうえで抽出したものである。		
抽出案件名	意見・質問	回 答
1. 平成30年度 138号BP柴怒田橋鋼上部工事	一括審査方式を採用されているが、どのような場合にこの方式を採用するのか。	工種・等級が同じで、工事の始期・品質確保等のために求める技術提案等が同一となる工事の場合に採用している。
	入札調書において無効の者が多いのはなぜか。	無効の8者のうち7者は調査基準価格未満であり、施工体制確認の資料を提出しなかったため、入札無効としている。
	なぜ、調査基準価格を下回る者が多いのか。	低入札者の応札額は僅差である。施工箇所は下部工が完了しており、現場条件として比較的施工しやすい状況といえる。受注意欲が高く低価格で入札したため調査基準価格を下回る者が多かったのではないかと推察する。
2. 平成30年度 飯田国道CCTV設備整備工事	参加者が7者と少ないが参加可能な者はどれくらいいるのか。7者いれば十分なのか。また、参加者を増やすための工夫はしているのか。	参加可能な者は54者を確認している。従来から同種の工事では、7～8者程度が参加している状況である。今回の発注にあたり同種工事の要件を、CCTVの新設・増設・改良・更新のいずれかと幅広く設定するなど工夫している。
	参加資格審査における企業の工事成績点数(申請された同種工事)が他社より高いにもかかわらず、加算点付与においては、他社より企業の能力等の加算点が低いのはなぜか。	加算点付与における企業の能力に関する評価は、同種工事として申請された工事の成績だけでなく、過去(4年間)の工事の平均点で評価しているためである。

抽出案件名	意見・質問	回 答
3. 平成30年度 浜松河川国道管内空調改修工事	不調・不落が続いたために一般競争から指名競争に至ったことや、今回も不参加・辞退が多い状況を見ると、なかなか手が挙がらない工事のようだが、どこに原因があると考えているか。	平成29年度に一般競争で不落となった際、参加者に確認したところ、施工箇所が事務所と出張所にまたがり距離が離れていることから経費がかかる分を見込み入札したということであった。そのことから施工箇所を事務所だけとした。
	それでも参加者する者が少ないということは、根本的に何か原因があるのではないか。	平成29年度の1回目の一般競争ではCランクで、地域要件は静岡県として不調であった。2回目は、ランクをB又はCとして、地域要件は中部地整管内として更に範囲を広げたら応札者はいたが、結果として不落となった。このような様々な工夫を重ねてきたが、ほかに原因となるものは考えられない。
	業者推薦調書の「その他」の欄にはどういふときに「○」がつかのか。	本件のその他については、建設業法の許可があるかどうかを確認し、当該工事に相当するの建設業許可があれば「○」としている。
	1回目の入札金額について、1者だけ安いのはなぜか。	過年度に当事務所の空調改修工事を受注している者で、事務所の詳細を知っており、ノウハウがあることから他社より低い価格で応札できたと推察する。他者はリスク等を考慮して余分な経費を計上したことから高額な応札になったのではないかと推察する。
	余分な経費がかかるかどうか、情報を発注時に開示し、公平にできないのか。	極力詳細な図面等を提示して発注するなど、より公平性を図っていきたいと考える。
4. 平成30年度 静岡国道管内道路清掃作業	契約額を決定するまでの経緯を教えてください。	まず予定価格を算出するが、これは積算基準によって積算し定めている。受注者から見積書を徴収し、予定価格と比較することとなるが、見積もり金額が予定価格を下回るまで、これを4回執行して決定した。
	ここ数年ずっと1者ということだが、何らかの方法で競争性を高める考えはないか。この方式をずっと続けていくのか。参加要件を満たす者はどれくらいいるのか。	参加資格の要件である同種工事については、年々緩和するなど競争性を高める工夫をしてきたが、それでも参加者は増えなかった。このため、平成29年度からこの参加者確認型方式を試行として採用したところ。現段階では、今後もこの方式で実施することを考えている。同種実績で28者、さらに類似の実績を含めると151者いる。
	要件を満たす者が多いにもかかわらず手が挙がらない理由は。	不測の事態に備え24時間体制で対応しなければならないこと、作業区間が広範囲にわたること、各路線の状況把握・迅速な処理への体制が必要なことなどが考えられる。
	競争性を高めるために、工事内容を分割して減らすなどの工夫をしてはどうか。	競争参加者がいない中で、平成29年度から参加者確認型方式を試行しているところである。参加要件もこれ以上の緩和は難しいが、更に何かできることが無いのか検討したい。
	関係業者からアンケートをとるなどは考えられないか。	参加者確認型を実施する際に業界から意見を聴取したが、業務の特殊性が強いこと、24時間体制であること、企業の経営上の問題程度の意見しか入手できなかった。
5. 平成30年度 23号名豊道路自然環境調査業務	落札率だけでなく応札率が全体に低い、予定価格が高すぎるということはないのか。	公表された基準どおりに積算しており、適正な価格であると考えている。
	自然環境・動物関係の調査であるが、技術者の資格要件が一般的なコンサル系のものとしているが、動物関係の資格を要件とはしないのか。環境では無い者も受注できるので、動物の生態に詳しい者に絞り、受注された方が良いのでは無いか。	技術士の中には環境の分野があり、これを含めて幅広く参加者を求めている。参加者を幅広く求めたいので、このような要件にしている。必要な成果が得られるために総合評価の業務実施体制などを評価している。

抽出案件名	意見・質問	回 答
6. 平成30年度 木曾川 下流管内水文観測所 保守点検・資料整理 業務	点検は、どのぐらいの頻度で行っているのか。	施設によってことなるが、波高計であれば年4回
	履行期間に5月が含まれないが、その期間は前の契約で実施されたのか。	1年間必要な業務であり、年度当初からできるよう手続きをとっているところであるが、当初発注に不手際があり、取りやめ、再発注したことからこのような履行期間になっている。
	定型的な業務のため指名競争にしろと言われたが、一般競争にした方が競争性が高まるのではないのか。	ガイドラインに則り、指名競争とした。 12者指名して10者が参加しており、一定の競争性は確保できていると考えている。指名しても2～3者しか来ない場合は一般競争にする必要もあるかと考える。
7. 平成30年度 由比地区 地すべり機構検討 業務	資料によれば、過去ずっと同じ者が受注しているが、他者が参加するのは難しいのか。	地滑りの地震時の照査について、検討手法は確立されたものがないため、この業務で先端的に、専門家に意見を伺いながら検討を進めており、技術的に高度なことから手が挙げづらいのではないかと考える。
	総合評価の特定テーマとして「大久保ブロック等の対策計画を踏まえた」とあるが、その受注者だけでなく他者もこの資料は入手できるのか。	過年度の報告書については閲覧が可能となっている。 対策内容については事業概要、学会の発表などでも確認できる。
8. 平成30年度 大規模 津波防災総合訓練運 営支援	特定されなかった業者は、参考見積書の金額が概算予定額と開差があったため不特定にしたということだが、どれぐらいの開差なら許されるのか。	明確な基準はなく業務に応じて個別に判断している。
	説明書には、概算予算額が5000万円程度とあるが、「程度」の取り方が難しくないか。記載の仕方を考えた方がよいのではないのか。	企画競争方式全体に関わる話なので、公平な競争となるよう検討したい。
	特定されなかった者は、発注者が求める内容、金額ではなかったとの説明があったが、内容も良くなかったのか。	特定した者の提案内容の方が優位であった。